

新連載

目録所長のあさひかわ楽

①

皆さん、こんにちは。これから暫く、月一回のペースでこのコラムを連載することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。仕事柄、金融や経済の話も出てくるかと思いますが、出来るだけ肩肘張らずに読んでいただけるようなテーマを取り上げ、エッセイ風に語ってみたいと思います。

存知権沢諭吉先生の郷里です。母は旧姓を竹内と言いますが、そのルーツは福岡だそうです。という訳で、私の中には九州の血が流れています。が、私は地縁、血縁が全くないこの北海道旭川に来て、とても快適に過ごして

オープンな心

が協力してつくりあげた街です。ね。さまざまな郷土文化を受け入れ、混ざり合うことでこの街、地域は発展してきたといことができています。「北海道合衆国」あるいは「旭川合衆国」と言っても過言ではないかもしれません。


私の父のことは、昨年十二月二百付本紙に掲載されていますが、まず私のルーツあたりから語らせていただきます。私は東京生まれ、東京育ちですが、「尾家」という姓(名字)のルーツは大分県中津のようです。

います。なぜでしょうか。それは、この地は外者にとってもオープンに感じられるからです。恐らく、現在地元にいらいっしやる方の多くは、何世代か前は道外のどこから来られた訳であり、極寒のこの地で皆

このように多様な背景をもった人や文化が混ざり合う社会の強みとは、元来、過去のしがらみや、固定観念にとらわれない「自由な発想」そして強靱でしなやかな社会基盤ではないかと思えます。オープンな心を

持ち合わせるこの地域が、外部からの刺激をうまく取り込みながら、よりよい方向に変わり続けていくことを願ってやみません。(日本銀行旭川事務所長 ※毎月第一週に掲載します)

新連載「目録所長のあさひかわ楽」スタート



日本銀行旭川事務所長 尾家啓之さんのエッセイを今号からスタートします。毎月第一週の掲載です。米国の留学・勤務の経験もある尾家所長が、我がまちをどのように語るのが、お楽しみに。

16面



尾家啓之(おいえひろゆき)さん 一九五八年(昭和三十三年)東京都生まれ。七四〇七五年(同四十九、五十年)に米国ユタ州へA.P.S.奨学金高校留学。早大政経学部政治科を卒業し、八二年(同五十六年)日本銀行に入行。米国ワシントンでの勤務や、梅本内閣の行政改革会議事務局への出向、総務人事企画役などを経て、〇七年(平成十九年)から旭川事務所長。趣味は音楽全般、ミュージカル鑑賞、社交ダンス。